

期待以上の効果あり。既存教室・大会に「安全・救急講習会」を取り込む

～はなわふれあいスポーツクラブ(福島県埴町)

1. 水泳教室内で安全対策の教室

夏休み期間中、毎週の水泳教室を利用して「プールでライフジャケットを使用した安全教室」を1回実施しました。教室始めの15分程度の内容でした。参加者は20名程度です。

安全教室の指導も水泳教室の先生にお願いしたので、通常通りの準備をして入水。先生が参加者の子どもをプールに投げ入れるというインパクトの強い場面もありましたが、「それでもおぼれないから安全なんです」という話でした。保護者も見ていましたが、ライフジャケットの有効性に感心していたようで、「ライフジャケットを購入しようかしら」という声も聞かれました。

このような安全対策に取り組むようになった背景には、毎年開催している水泳教室に、何かひと工夫がほしい。カヌー教室の時に使うライフジャケットを持っているが、カヌー教室のときにしか使わなくてもったいない。毎年新しいウォータースポーツが誕生し楽しむ人が増えている。その反面、子どもを中心に運動能力や体力が低下しているため、自分の命を守れずに命を落としてしまう事故があつと絶たない、クラブでも何かできないか。などの背景や話し合いがありました。

また、個別に費用や時間がかからないようなやり方にするために、水泳教室の時間を少し割いての安全教室の開催となり、あらためて募集もしませんでした。

保護者からは、プールに投げ入れられたにもかかわらず、むしろ楽しそうにしているわが子を見て、子どものタフさに改めて気づいたようで、「川遊びや海水浴は絶対に禁止していましたが、目の届くようなところでは大丈夫なのかなと思いました。」という話も聞かれました。教室開催後、新聞記事にもなりました。

水難事故から身を守る方法として、確実なのは「水辺に近づかない」ことですが、かえって、いざというときに何も抵抗できず最悪の事態になってしまいます。逆に、もっと水に親しみ、かつ安全用具を使用するという積極的な方法も選択肢の一つとしてあってよいと思います。

小学校など、学校教育の現場でも着衣泳など、そういった機会を与えていますが、スポーツクラブは自由な形で教室などを開催できるという強みがあります。その強みを生かせるよう、来年度はもう少し遊びのある安全教室などができればと思います。

2. 普通救命講習会&カローリング大会

ある時、消防署に勤務している理事から、普通救命講習会開催を提案されました。また、クラブでは安価とは言えないカローリングを4セット購入し、冬に誰でもできるカローリングの競技人口を増やそうと、定期的な活動を始めていたのですが、第1回大会では参加者が思ったように集まりませんでした。第2回大会の開催を予定するも、定期的な活動者が増えないので、どのように大会の参加者を増やそうか考えていた時でした。

そこで、参加者を集めるために、2つの事業を一緒にしてしまおうということになり、同日開催になりました。年度末だったので、1年間の感謝の気持ちをこめて、参加者に満足していただけるような企画にしようと考えました。



午前中に講習会、午後にはカローリング大会、そしてお昼もありますよと1日楽しめるということアピールし参加費は無料にしました。会員への案内はもちろん、回覧板や防災無線等を利用し広く周知しました。

当日の講習会は、暖房の効く公民館の和室を会場として借り、講師は消防署分署の署員の方にお願しました。DVDを見ながらそれにそって心肺蘇生法、AEDの操作法を学び実技、質疑応答、埴町の实情にあった話を聞け、とても充実した内容になりました。

講習会終了からカローリング大会までおよそ1時間。カローリング大会の参加を控えている方に、クラブからお昼(クラブ特性かつおの漬け丼)を振舞うサービスも大好評でした。カローリング大会には前回より多くの方が参加していただき、午前中だけの参加希望だった方も大会を見に来てくださって、前回とは違う雰囲気でした。充実した1日だったとおっしゃってくださる方が多数いらっしゃいました。

記念品や副賞を、別の種目の用品にすること(例えば、グラウンドゴルフのグローブをカローリング大会の副賞にするなど)で、単一の種目に限らず、様々な種目に挑戦する機会になるという試みもしています。

その後、普通救命講習会は、毎年開催されるようになりました。参加者には「定期的に受けられるので、毎年クラブの講習会には出るようにします」といってくださる方もいます。

また、講習会と同日開催にしたことで、その種目に興味がなくても「ついでだし、出てみようかな。」というノリで参加してくださる方もいらっしゃいました。今までやったことがない新しい種目に挑戦できるよい機会になるかなと思いました。

(藤田 健 はなわふれあいスポーツクラブ事務局)



【はなわふれあいスポーツクラブ・プロフィール】

1. 設立

設立年：平成19年2月設立

設立母体：町の体育指導委員と体育協会理事を中心に設立準備委員会を組織。

設立経緯：町教育委員会がスポーツや運動に関する住民意識調査を実施。

その結果、町に総合型クラブが必要だとなり、会議やプレ事業等を経て設立。

2. 地域

人口：埴町民 10,500人程度

地域の特性：総面積211k㎡、福島県南地域の町村では最も広い。

うち約8割が山林・原野。小学校が6つあるが各地区に点在している

3. クラブ

会員数：約380名(7つの既存のスポーツ団体、新規クラブ内サークル団体、新規個人会員、賛助会員)

特徴：競技レベルの活動はなく、スポーツを楽しむことを目的に、複数種目展開している。

その他、イベントも開催。

予算規模：5,500,000円

(会費収入70万、事業収入50万、町補助金120万、県助成10万、toto助成300万)

4. 連絡先

〒963-5405 福島県東白川郡埴町大字埴字桜木町80番地

TEL:0247-43-2644 FAX:0247-43-1883

Email: sgs@town.hanawa.fukushima.jp